

# 興行分析 1月度レポート

◆————◆  
< 2012年2月17日 >

2012年最初の月は、  
興収前年比92.3%と厳しい結果  
2011年の水準を大きく超えるには、“映画”  
そのものに目が向くきっかけが必要

## 興行分析 1月度レポート

### 【首都圏ロードショー館の前年同月比は、興収92.3%、動員92.7%】

年間の興収が前年比82.1%、動員が83.0%となった2011年の結果を受け、2012年の興行が始まった。1月の興行は、東京ロードショー劇場79館の集計では、総動員数が64万287人、総興収が8億7877万円となり、前年同月（81館）比で動員92.7%、興収92.3%。また、前月（昨年12月）からの流れでは、興収の前月比が80.6%、動員が82.1%と大変厳しいスタートとなった。

まず、年明け早々の正月興行を見ると、12月31日～1月1日の週末ランキングでは、「ミッション：インポッシブル／ゴースト・プロトコル」（パラマ／12月16日公開）が1位。これに「聯合艦隊司令長官 山本五十六 一太平洋戦争70年目の真実」（東映／12月23日公開）、「friends ものけ島のナキ」（東宝／12月17日公開）と続き、正月休みが明けて初めての週末（7～8日）でも上位2タイトルは変わらず。では、これら正月興行作品の成績はどうだったか。上位作品の興収を1月末時点で見ると――。「ミッション～」（50億円超）、「映画 怪物くん」（30億円超／東宝）、「映画 けいおん！」（16億円超／松竹）、「friends～」（14億円超）、「聯合艦隊～」（14億円超）となる。昨年は、「ハリー・ポッターと死の秘宝 PART1」（最終興収68.6億円／WB）、「SPACE BATTLESHIP ヤマト」（同41億円／東宝）、「相棒―劇場版Ⅱ― 警視庁占拠！ 特命係の一番長い夜」（同31.8億円／東映）などがあり、昨年と比べ、また例年と比べても大変厳しい成績といえる。

### 【月前半は、新作では「ロボジー」の前作（「ハッピーフライト」）超えに注目】

では、1月に封切られた新作はどのようなスタートを切ったか。まず、7日に登場した「フライトナイト―恐怖の夜」は、443スクリーン、初日2日間で動員5万254人、興収7082万円と、3D、2Dの同時上映でスクリーン数は多いものの、それに見合う成績にはほど遠い。一方、同日公開の「マジック・ツリーハウス」（ギャガ）は、178スクリーンで興収1億円超えとなる効率の良い興行。大ベストセラー児童文学のアニメ映画化で、メインキャスト（声優）に北川景子や芦田愛菜を配し、パブ露出も万全。5億円超えに期待がかかる。翌週14日には、「スウィングガールズ」（08年／東宝）などの矢口史靖監督作「ロボジー」（東宝）をはじめ、オダギリシヨウ、カン・ドンウォン主演で、「シュリ」のカン・ジェギョ監督による韓国戦争大作「マイウェイ 12,000キロの真実」（CJ／東映）、2011年に「冷たい熱帯魚」「恋の罪」（ともに日活）でスマッシュヒットを連打した園子温監督作「ヒミズ」と話題作が並んだ。「ロボジー」は278スクリーンで公開、初日2日間で動員16万4694人、興収2億234万円と好調なスタートで、前作「ハッピーフライト」（東宝／最終興収13.3億円）超えを狙う。「マイウェイ～」は300スクリーン、初日2日間で動員7万1664人、興収8526万円。アジアのスターが競演する大作だが、第2次世界大戦時のヨーロッパを舞台にしたテーマは、彼らのファン層と合わなかったといえそうだ。「ヒミズ」は79スクリーンと前2作より公開規模を広げ、初日2日間の興収が3500万円と健闘。前2作を大きく上回る最終2億円超えを見込む。

### 【月後半は、「ALWAYS～」の大ヒットはあるものの、前年興収の水準には届かず】

月後半には、21日に「ALWAYS 三丁目の夕日'64」（東宝）、「海賊戦隊ゴーカイジャーVS宇宙刑事ギャバン THE MOVIE」（東映）、「ジョニー・イングリッシュ 気休めの報酬」（東宝東和）、「きみはペット」（東宝東和）、北海道先行上映の「しあわせのパン」（アスミック）の5作が登場した。

3D版上映もある「ALWAYS～」は473スクリーンで公開、初日2日間で動員42万1274人、興収5億5566万円の大ヒットスタートとなった。1作目（東宝／05／32.3億円）、2作目（東宝／07／45.6億円）と興収を伸ばしてきたが、本作では、前作を超えてどこまで50億円に近づくかに期待がかかる。震災以降、経済環境も含め閉塞感につつまれる現状において、本作が観客に広く受け入れられたのは、今の日本人の心情とフィットしたからにはほかならない。また、263スクリーンと公開規模は違えど、「海賊戦隊ゴーカイジャー～」も動員15万9227人、興収1億6075万円と絶好のスタートで、こちらも前2作を上回る成績。そして、韓国のスーパー・アイドル、チャン・グンソク主演の話題作「きみはペット」は92スクリーンと絞った公開で、動員4万6877人、興収6869万円とますますの発進。興行以上に物販の売れ行きが好調で劇場への貢献度は高い。「ジョニー・イングリッシュ～」は126スクリーンで動員3万9371人、興収5107万円。映画の舞台となる北海道12スクリーンで先行上映された「しあわせのパン」は、動員7245人、興収960万円のスマッシュヒット。28日の全国公開に向けて勢いをつけた。

最終週28日には「麒麟の翼」（東宝）、「J・エドガー」（WB）、先行27日（金）公開の「DOCUMENTARY of AKB48 Show must go on 少女たちは、傷つきながら夢を見る」（東宝映像事業部／ODS）などが登場。「麒麟の翼」は377スクリーン、初日2日間で動員21万7183人、興収2億7640万円をあげる好スタートで、最終20億円超えを狙う。一方、クリント・イーストウッド監督作「J・エドガー」は138スクリーンと小規模の公開で、動員5万4104人、興収7567万円。アカデミー賞常連のイーストウッドだが、今年はノミネーションに絡まず、初代FBI長官J・エドガー・フーバーは日本では馴染みが薄く、観客の広がりには欠けたようだ。ODS上映の「AKB48～」は94スクリーンで先行27日（金）公開、初日3日間で動員7万3050人、興収1億139万円をあげるヒットを記録。「J・エドガー」を上回る成績で、ヒット作が生まれにくい現在の興行界にとっては重要なコンテンツといえる。

冒頭で触れたとおり、2012年最初の月は興収前年比が92.3%に終わった。まだ12分の1が終わったばかりだが、先々のラインナップを見ると、今後、予想外の大ヒットが連発したり、中小規模作品のアベレージが上がるなどの好転要因がなければ、2011年の水準を大きく超えていくことは難しい。“映画”自体に日本人の目が向くきっかけが必要だ。